

不登校生徒の学習支援について

【立川市立A中学校の取組】

不登校生徒の状況

教室の中で授業を受けることが苦手な生徒もいる。しかし、登校して学習したいという生徒に対して、水曜日から金曜日の午前中に教室以外の場所で個別指導の学習を中心に取り組み、自分の居場所を作っている。

具体的な取組

校内個別指導教室を設置し、組織的に指導にあたっている。学習の遅れやコミュニケーション能力の向上を個別指導している。丁寧な個別の対応を実践している。

月に2～4回、生徒の状況を加配教員が中心となり特別支援会議を開く。支援会議では加配教員や各学年教員以外にもスクールカウンセラー、生活指導主任、特支コーディネーター、養護教諭、管理職と情報共有を行い、支援計画を検討・決定するとともに進捗状況を管理し報告している。

家庭訪問や面談に同席させることにより、経験不足や若手教員への指導、助言を行う。



不登校生徒の情報をデータ化し、全教職員で共有することにより多面的な指導を行っている。

成果

校内個別指導教室を設置することで、設定曜日を増やして登校機会の増加に努めることで、有効な活用がされている。

居場所を作ることで、不登校の未然防止や不登校の減少になっている。

課題

予算の関係で限界があり、更なる人材確保の方法を必要としている。